

### 第三者評価結果を受けての意見・感想など (「くるみ学園」「いちい」職員より)

3クール目の評価は、2020（令和2）年10月15・16日に行われました。新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に努め、子どもインタビューの中止と施設見学は入所児童のいない中での見学でした。評価者が子どもと食事を共にするなどといった場面観察もできませんでした。また、職員面談も最小限の人数と時間と3密を避けました。

例年、評価の終了後に子どもと職員の2種類のアンケートを実施します。子どもアンケートは、子どもと関わる時間がなかったので行いませんでした。職員アンケートも関りが限定的だったので、面談した職員から一筆のご協力を得ました。

今回、この公表ページに掲載したことで、3年毎の受審が子どもの権利擁護に向けて歩む記録にもなればさいわいです。（評価機関サード・アイ（合））

#### 職員 A

全般を通じてくるみ学園として取組みは実施できていると感じたが、設問の捉えによっては評価が変わる部分もある。経営面に関しては返答が難しく、対応を施設長にお願いする部分もあった。

評価者と設問の捉えをすり合わせるまでには至らなかったが、過去数回の実績から園としての把握と実践に対する評価はいただいていると感じた。

日常の業務が何の取組みに繋がっているのか、その取組みはどのように明文化されているのかを全体で共有することが大切になる。

また、自分を含め各職員が適切に外部に対して説明できる力が必要と感じた。自己評価にて点検していた部分ではあったが、より細かく文書や取組み状況が整理されているか確認していく。

地域の福祉ニーズの把握や、施設内の標準支援に関する整理は課題。

マニュアルに対する改訂年度の記載がない。全体的な見直しと整理が必要。

次回の受審に向けて、評価結果を踏まえ取組みを整理していく。

#### 職員 B

今回の評価を受け、日々業務にあたって施設のしくみや制度・ルール等を理解しているつもりで現状までおりました。評価を受審しない年は各々での自己評価・各寮単位での話し合いなども実施してまいりましたが、そこでは気づけなかった盲点等があると受審して痛感しました。やはり、内部だけでなく外部第三者にたった視点での意見というのは、必要だと感じました。

現状施設として足りない箇所や、高評価を頂いた事項が分かりやすく記載して頂き今後の課題や継続していくことがハッキリしているため施設をより良い形にしていく

ことができると思いました。

実際に評価を受けて、施設として職員だけで様々なことを完結している状況であり児童が主体となる、児童会等の設立等まだまだ足りない箇所が多いと感じました。今後としては、近隣の施設や道内施設など他の施設の状況など様々な情報を取り入れていきたいと思っております。

また、内容評価基準A-1(4)被措置児童虐待防の防止等①A4について現状C評価であり、職員それぞれでの理解はあるものの、施設としてのガイドラインに則った制度の仕組みについてももう少し力を入れC評価をB→Aともっていけるよう工夫をしていきたいと思っております。

CAREプログラムについて良い評価を頂いておりますが現状トレーナー資格取得職員はいない状況であり、取得に至っても取得条件がとても厳しい状況にあるため、外部講師等の力をお借りし更なるスキルアップにつなげて行きたいと考えております。

今年度はコロナウィルスという感染症の影響もあり難しい状況でしたが、私たちの業務は書類関係も大事ですが、何より児童との関わりが第一の仕事だと思っております。次回は、ぜひ関わりの部分も見えて頂ければと思っております。

## 職員C

今回の第三者評価の面談を通して感じたことは、子どもに日常的に関わる部分では子ども達のことを第一に考えて対応している、最優先しているということを理解していただき、職員が日々連携し、話し合い協議し、フォローし合いながら協力体制のもと取り組んできたことが、くるみ学園職員の強みであるということの評価していただき、今後の職員の励みになると思いました。

「アフターケアの充実の必要性」においては、卒園後に必要な生活技術の習得や社会自立に向けて必要な項目を職員と共に動き、取り組んでいます。しかし退所後に分かった困りごとやつまずきを連絡が来た時にはその都度、可能な限り教えていますが、その場で終わってしまっているのが現状です。その困りごとやつまずきを受け止め、社会自立達成項目アンケートに反映できていないこと、アンケートを見直し時代に即した項目を追加していかなければならないと感じました。社会自立達成項目アンケートの実施についても高校3年生対象にしていますが、早い段階からアンケートを実施し、子ども一人ひとりのできないことを明確にして時間をかけて計画的に習得させていく必要があると思われました。

卒園生との定期的な連絡については現状できていませんが、都度、現在連絡や手助けが必要な子どもをピックアップし、アフターケアをしている状況にはあります。子どもによっては施設からの連絡を拒否することもあり、施設や担当職員との関係性が良ければいつでも連絡はとれるのだと思っております。そのことを踏まえると施設での関係性作りがとても重要になってくるのだと感じました。

今回の第三者評価の総評を受けて、職員の取り組みを振り返り、改善しながら今後につなげて

ていきたいと思います。

#### 職員D

- ・評価内容においては、特に異論はなく、真摯に受け止めて次年度以降の取り組みへ活かしたい。
- ・施設の性教育の取り組みは、子どもの年齢や発達段階に応じて、子ども達が理解を深められる内容のマニュアルの見直し、日常の取り組みについて協議し、進めていきたい。
- ・自身が面談を受けた中で、指摘を受けた内容について、すぐに改善や工夫できる事項については職員会議でも全職員へ周知し、整備に取り組んでいる。(自立支援計画に関する事項等)
- ・第三者評価受審に至るまでの取り組み(自己評価やC評価に対する取り組み等)についても、面談の中で評価していただき嬉しく思う。
- ・職員と子ども達との関係性、各ユニットの取り組みについて高く評価頂いた点は嬉しく感じる。今後もくるみ学園の理念(「With Child」「いつでも安らぎを」)を念頭に、子ども達と常に一緒にあろうとする志と、いつでも安らげる存在となるべく、全職員精進していきたい。
- ・3年に一度の期間は少し早く感じる。子ども達が生活する場所で、3年間で急激な変化はなく、取り組むにも時間が掛かる事項が多く感じた。

#### 職員E

面談では実際に言葉に出し発言することで、自身の取り組みの善し悪しを身に染みて感じることができ、今回総評して頂いた資料の言葉を目にすることでさらに明確になったと感じます。日常で取り組んでいたことが自信に繋がり、それを継続して行うこと、またさらに向上するために必要な変化も今後考えていかなければいけないと思います。今後、様々なことを念頭に置きながら評価を参考にさせていただき、職員同士で協力してスキル向上を目指していきます。

#### 職員F

小規模の生活、決まりや流れは、それぞれ子ども達に合わせて出来上がっています。その

ため、これは、正しいのだろうか？どこの誰と比較すればよいのだろうか？一般のお家を見習ったらよいのか、本体と同じことをすればよいのか・・・いつも悩み、職員で考えます。少しずつできあがっていったものをこのような形でよく見て下さり、アドバイスを下さり、私たち職員の視野が広がることは、いちいの成長に必要なことだと感じます。私たちの伝え方がたどたどしかったにも関わらず、細かなところまで、目を向けて下さり、この取り組みをしてきてよかったな、ここはもう少し改善しようと感じることもできました。書面としていただいたものも、改めて実感する部分は多く、考えさせられました。私たちの改善すべき部分については、いちいとしてどのように取り組んでいくか今後も考えていければと感じます。